

## 特集：3.11と児童文学Ⅱ

2011年3月11日に起きたのは、地震と津波だ。

今私たちが「3.11」前後で世界を画して考えるとき、それを決定づけたのは原発事故だろう。「3.11」と向き合う特集の二回目は、核・放射能から考える。

スリーマイル島原発事故（79年）、チェルノブイリ原発事故（86年）と並び、世界三大原発事故となってしまった福島第一原発事故。幾世代にもわたり、また国境も越えて命を傷つけ続けることの罪責はとうの昔に始まっていたのだが、そのことを改めて直視せざるを得なくなったのが「3.11」以降と言ってよいのかもしれない。

放射線は目に見えない。

目に見えないものへおびえ続ける心もまた、目には見えない。

目に見えないものごとへの想像力。

目に見えないものごとを他者と共有するための言葉。

児童文学が自らの特性を自覚して、もっと力を付けて、「3.11」以降の世界を生きるしかない子どもたちになにがしかのよいものであれるように願って、本特集を組む。